

<b>Numbering code</b>		U-LAS06 20033 SJ43			
<b>Course title &lt;English&gt;</b>		社会・経済システム原論基礎ゼミナール Introductory Seminar on Socio-Economic Theory		<b>Affiliated department, Job title, Name</b> Graduate School of Human and Environmental Studies Associate Professor, SHIBAYAMA KEITA	
<b>Group</b>		Humanities and Social Sciences		<b>Field(Classification)</b> Jurisprudence, Politics and Economics(Issues)	
<b>Language</b>		Japanese		<b>Old group</b> Group A <b>Number of credits</b> 2	
<b>Number of weekly time blocks</b>		1		<b>Class style</b> seminar	
<b>Day/period</b>		Wed.5		<b>Target year</b> All students	
<b>Course offered year/period</b>		2019・Second semester			
<b>Eligible students</b>		For all majors			
<b>[Outline and Purpose of the Course]</b>					
現代日本が直面するさまざまな問題について、受講者各自が調べ報告してもらう。昭和から平成にかけての政治・経済・社会の歩みについて簡単な概説を行った後、関連したテーマを受講者各自が設定し、毎回の授業で報告してもらうことになる。毎回の講義では、ただ現実を批判的に眺めるので終わるのではなく、新たな社会構想へと繋がる議論をしていきたい。					
<b>[Course Goals]</b>					
時事問題への関心と理解を深めること、およびそれらの問題に関する基礎知識を身につけることが目標となる。					
<b>[Course Schedule and Contents]</b>					
1. 戦後日本の歩み 冷戦体制と五五年体制 / オイルショックとバブル / 家族・地域社会の変化 2. 産業社会の変化 日本的経営の確立 / グローバル化 / デフレーションと長期停滞 3. 現代の課題 一党優位制の是非 / 地方分権と道州制 / TPP / 少子化 / ナショナリズム (以上はとりあえずのものであり、講義で扱われるトピックは受講者の関心に応じて変更される。)					
講義はゼミ形式で行われる。数回の授業(2~3回)の後、受講者の関心を聞きつつ、報告の割り当てを決める。その後は、毎回の報告と、その内容についての受講者全員での討議を行う。					
<b>[Class requirement]</b>					
None					
<b>[Method, Point of view, and Attainment levels of Evaluation]</b>					
報告(30)、平常点(20)、およびレポート(50)による評価。					
<b>[Textbook]</b>					
Instructed during class					
<b>[Reference book, etc.]</b>					
(Reference book) Introduced during class					
<b>[Regarding studies out of class (preparation and review)]</b>					
図書館を効果的に利用してもらいたい。詳細は講義時に説明する。					
<b>[Others (office hour, etc.)]</b>					
報告内容についての相談は講義後に適宜、行う。					